

ASEAN 大使通信
第 32 回 ASEAN 関連外相会議での新たな進展

2025 年（令和 7 年）7 月 31 日



日 ASEAN 外相会議
(2025 年 7 月 10 日、於クアラルンプール、ASEAN 事務局提供)

7 月のハイライトは、クアラルンプールでの [ASEAN 関連外相会議](#)でした。本年の ASEAN 議長国マレーシアは、5 月下旬に ASEAN 首脳会議と GCC や中国との首脳会議を開催しました。それを踏まえて、幅広い域外国を招待して開催した ASEAN の会議は今回が本年初めてです。秋の最大行事である ASEAN 関連首脳会議につながる基礎にもなります。私もジャカルタから現地に先乗りして、在マレーシア日本大使館の館員や東京をはじめ各地からの出張者と合流し、事前の準備・打ち合わせや当日の会議出席・サポートに回りました。

翌週はジャカルタに戻り、今回の ASEAN 関連外相会議での新たな進展は何か、ASEAN 事務局や各国常駐代表部、域外国代表部との情報・意見交換や分析・フォローアップに注力しました。7 月下旬には日本に一時帰国し、大阪・関西万博の ASEAN と加盟国のパビリオンを初めて視察できました。

今回の大使通信では、7 月を振り返りながら、ASEAN 関連外相協議での新たな進展とその意義について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



日 ASEAN 外相会議

(2025 年 7 月 10 日、於クアラルンプール、ASEAN 事務局提供)

●ASEAN 関連外相会議

7 月 8 日から ASEAN 各国の外相がクアラルンプールに到着し、各種のマルチやバイの会合が始まりました。翌 9 日には ASEAN 外相会議の開会式、全体会合とリトリートがクアラルンプール会議場（KLCC）で開催され、[域外国との関係強化に関する外相決定](#)が採択された他、最終日には [ASEAN 外相共同コミュニケ](#)が発出されました。私は 8 日の夕刻からクアラルンプールに入り、9 日朝には会議場を下見しながら、[アンワル首相の開会式での演説](#)をスクリーン上で傍聴しました。その日は各国の事務レベルとの打ち合わせを行いました。

岩屋外務大臣は同 9 日夜にクアラルンプールに到着し、10 日から 11 日にかけて ASEAN 関連外相会議に出席しました。今回の一連の会合を通じて、日本と ASEAN が、引き続き「信頼のパートナー」として関係強化に取り組んでいくことを確認できました。さらに、法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の推進を通じ、国際社会を分断と対立ではなく、対話と協調に導いていくとのメッセージを発信しました。

この機会を捉えて、日・メコン外相会議、CEAPAD 閣僚級会合、11 の国・地域との会談・懇談、そして日米比外相会合、日米韓外相会合も開催しました。



ASEAN+3（APT）外相会議
（2025 年 7 月 10 日、於クアラルンプール、ASEAN 事務局提供）

●日 ASEAN 外相会議と ASEAN+3（APT）外相会議

7 月 10 日は日 ASEAN 外相会議、ASEAN+3（APT）外相会議が相次いで開催され、同日晩にはガラ・ディナーが盛大に開かれました。

ASEAN と対話国の外相会議は、ASEAN Post-Ministerial Conference with [国名] と呼ばれます（前頁写真のスクリーン参照）。略称は「PMC」で、ASEAN 創設間もない 1970 年代、ASEAN 外相会議の機会に対話国外相も参加するようになった頃からの伝統です。対話国は今や 11 か国・機関に増え、ASEAN 側調整国の分担や時間帯・スロットを工夫しながら日程が組まれています。ASEAN 全加盟国・東ティモールと各対話国が今後の協力の方針を検討・確認できる貴重な機会、今回も多くに対話国との間で行動計画が採択されました。

[日 ASEAN 外相会議](#)では、対日調整国であるシンガポールのバラクリシュナン外相と岩屋大臣が共同議長を務めました。岩屋大臣から「ASEAN 共同体ビジョン 2045」への全面的な支持を表明した後、具体的協力の深化の方向性や主要な地域・国際情勢についての意見交換を行いました。また、[ASEAN+3（APT）外相会議](#)も同日開催され、各国の取組の紹介とともに、優先すべき協力分野や北朝鮮情勢について議論が行われました。



東アジア首脳会議（EAS）参加国外相会議
（2025 年 7 月 11 日、於クアラルンプール、ASEAN 事務局提供）

●東アジア首脳会議（EAS）参加国外相会議と ASEAN 地域フォーラム（ARF）

11 日には、[東アジア首脳会議（EAS）参加国外相会議](#)が開催されました。EAS は、ASEAN 中心の地域枠組みの頂点に位置し、地域の主要国が一同に会して戦略的課題について対話と協力を進める首脳主導のフォーラムとして重要です。

ASEAN 各国と東ティモールの外相や日本の岩屋外相に加え、ルビオ米國務長官、王中外相、ラブロフ露外相、ウォン豪外相、ピーターズ NZ 外相、マルゲリータ印外務担当國務相、パク韓第一次官が一堂に会し、地域・国際情勢や EAS 協力について意見交換を行いました。主要国外相が対面で挨拶し、直球勝負で意見を交わす場に同席して、このような機会の重要性を改めて感じました。

その後、[ASEAN 地域フォーラム（ARF）閣僚会合](#)が開催されました。政治・安全保障に関する対話と協力を通じ、アジア太平洋地域の安全保障環境を向上させることが目的のフォーラムで、歴史が長くメンバーも多いのが特徴です。

岩屋大臣からは、欧州、中東、インド太平洋地域の安全保障環境が密接に連関し、国際情勢が厳しさ、不確実性を増す中で、ARF の掲げる信頼醸成や予防外交の重要性はこれまで以上に重要であるとして、日本の立場を説明しました。



CEAPAD 第4回閣僚級会合
(2025年7月11日、於クアラルンプール、外務省提供)

●CEAPAD 第4回閣僚級会合

今回の ASEAN 関連外相会議では、日本と ASEAN 議長国のマレーシア、そしてパレスチナの三者共催の下で、[パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合（CEAPAD）第4回閣僚級会合](#)を開催したことが大きな成果でした。CEAPAD 閣僚級会合の開催は、コロナ以降初めてです。

岩屋大臣から、ガザ情勢を含めパレスチナがかつてない困難に直面し、喫緊の人道ニーズと膨大な早期復旧・復興ニーズが生起する中、日本が 2013 年に立ち上げた CEAPAD の枠組みを通じた連携を活性化し、パレスチナ支援の拡大と手段の多様化を図ることの意義を強調しました。その上で、多様な経験を有する東アジア諸国が、それぞれの強みを活かして、人道支援のみならず、パレスチナの復興や発展の各段階で協力していくことが CEAPAD の強みであると述べました。

会合の成果として、日本、マレーシア及びパレスチナ三者による共同議長声明が発表されるとともに、パレスチナのニーズと各参加者が強みを活かす支援分野を示す CEAPADIV クアラルンプール行動計画が採択されました。



大阪・関西万博の ASEAN パビリオン訪問
(2025 年 7 月 28 日、於万博会場)

●大阪・関西万博の ASEAN パビリオン訪問

7 月下旬には日本に一時帰国し、28 日から 29 日にかけて、[大阪・関西万博の ASEAN と加盟国のパビリオンを初めて視察](#)しました。大阪・関西万博は 4 月 13 日の開幕から 3 ヶ月半が過ぎ、[来場者数](#)は 29 日時点で 1,400 万人を突破、毎日十数万人が来場しています。会場は朝一番から夕刻まで大賑わいでした。

[ASEAN パビリオン](#)では、ASEAN 事務局から派遣されているアンディさんから説明を受けました。ASEAN の歴史をはじめ 3 共同体や連結性の発展や課題など最新の状況が展示され、来場者向けのアトラクションも用意されていました。

[「ASEAN パスポート」](#)を手に ASEAN 加盟国のパビリオンを回ると、それぞれがお国柄や物産を最大限アピールする魅力的な展示でした。訪問者にとって、ASEAN 各国に接して文化や雰囲気を知るための大変良い機会だと感じました。

大阪・関西万博は 10 月 13 日まであと 3 ヶ月近く続きます。皆さんも機会がありましたら是非万博会場にお越しください！



ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）と ASEAN 事務総長との対話
（2025 年 7 月 29 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供）

●FJCCIA と ASEAN 事務総長との対話

一時帰国中のため私は参加できませんでしたが、7 月 29 日には [ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）と ASEAN 事務総長との対話](#)が ASEAN 本部事務局で開催されました。FJCCIA 代表の若林浩一ベトナム商工会議所会頭及び ASEAN 各国の日本商工会議所の代表者から、在 ASEAN 地域日系企業の要望をサプライチェーン、DX、GX、ASEAN の包摂性の 4 本柱にとりまとめた「ASEANに進出する日系経済界からの要望書（2025 年）」の説明があり、[力オ事務総長](#)からは、FJCCIA が日 ASEAN の経済統合、イノベーションと持続的開発のさらなる推進に果たす役割への期待が表明されました。

今月の ASEAN 関連外相会議では、各種の成果文書や会議でのやりとりを通じて、最新の国際情勢を受けての ASEAN やインド太平洋地域での新たな進展や課題について理解を深めることができました。秋の ASEAN 関連首脳会議、さらにはその後に向けて、今回の成果と教訓を是非生かしていきたいと思います。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦